

氏名	今村 牧夫
授与した学位	博士
専攻分野の名称	薬学
学位記授与番号	博甲 第 5718 号
学位授与の日付	平成 30 年 3 月 23 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文の題目	がん専門薬剤師の外来がんチーム医療への貢献 －薬剤師外来の機能と効果の検証－
論文審査委員	教授 有吉 範高 (主査) 教授 千堂 年昭 准教授 四宮 一昭 准教授 須野 学

## 学位論文内容の要旨

がん診療に専門的な知識や技術を有するがん専門薬剤師を効果的に活用するために 2008 年にがん薬物療法領域としては全国で初めての薬剤師外来を開設した。薬剤師外来は主治医の診察前にはがん専門薬剤師が診察をする形式としたことで、医師はがん専門薬剤師からの情報や提案を把握した状況で診察できるため、提案を効率的に臨床に反映できるようになった。

薬剤師外来の開設によって医師の業務負担が軽減したため化学療法の外来移行が促進されたこと、がん専門薬剤師が行った支持療法薬剤の処方提案によって患者の副作用が有意に改善することが明らかになった。医療者および患者へのアンケート調査研究の結果からは、医療者、患者ともに薬剤師外来への評価は非常に高く、医療者からは支持療法の設計や治療方針の立案、化学療法の管理などが評価されている機能で、患者にとっては質問や相談がしやすい環境で患者の疑問や不安に対応しつつ、適切な処方設計を行っていることが評価に繋がっていることが明らかとなった。がん専門薬剤師と医師の協働による治療成績や医療経済への影響を検証するために、医師のみで治療管理した患者群との比較研究を行った結果、治療成績には優劣は生じなかったが、がん専門薬剤師との協働群では有意に外来治療率が高く、患者の QOL を損なうことなく、経済的な治療が提供できることが示された。

本研究によって、がん専門薬剤師による薬剤師外来はがん診療に有意義な影響を及ぼすことが証明されたので、積極的な活用と今後の発展が期待される。

## 論文審査結果の要旨

全国で初のがん領域の薬剤師外来を立ち上げられた経緯から、単に運用実績をまとめるだけでなく、医療者のみならず、患者にもアンケート調査による第三者評価も行っており設置したサポート外来の有用性の評価結果も客観性がある。第3章も副査の指摘に従い、採択された原著論文から例数は減ったものの、無理のない群間比較となっており結論が変わっていない点は頑健性があると評価できる。2月7日（水）に、主査・副査と面談を行い、主査・副査からの指摘事項について質疑応答を行った。指摘を受けた箇所の修正ならびに、考察における研究の限界の追加については、2月13日（火）に、主査が確認を行った。論文は、指摘事項にそって適切に修正されており、合判定に至った。